



内閣府

福島第一原子力発電所から大気中への

放射性核種（ヨウ素 131、セシウム 137）の放出総量の推定的試算値について

平成 23 年 4 月 12 日

原子力安全委員会

## 1. 趣旨

- (1) 今回の福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質の量を正確に推定することは、現段階ではまだ困難です。
- (2) このような状況ではありますが、原子力安全委員会は、事故の全容を把握する一環として、日本原子力研究開発機構の協力を得て、福島第一原子力発電所から大気中に放出された特定の放射性核種の放出総量の推定的試算を進めてきましたので、現段階でのその結果を公表します。

## 2. 結果

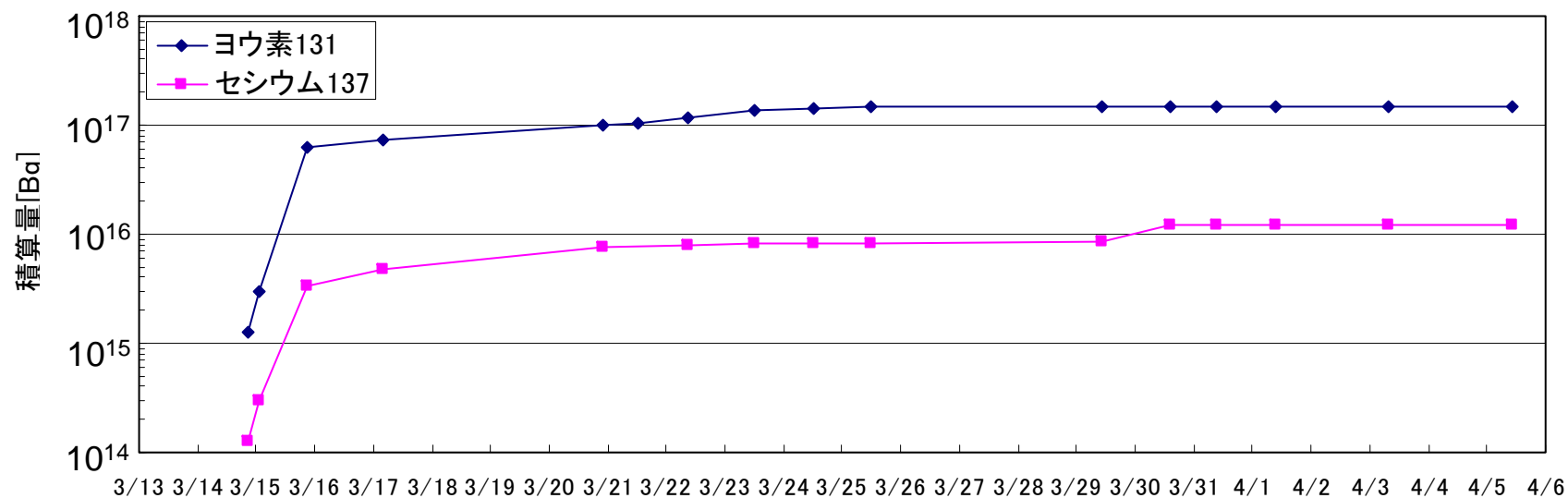
- (1) 推定は、現在まで得られている環境モニタリング等のデータと大気拡散計算から特定の核種について大気中への放出量を逆推定する手法で行いました。
- (2) その結果、ヨウ素 131 とセシウム 137 について、3 月 11 日から 4 月 5 日までの大気中への一部の核種の放出放射能総量として、ヨウ素 131 が  $1.5 \times 10^{17}$ Bq、セシウム 137 が  $1.2 \times 10^{16}$ Bq という推定的試算値が出されました。

推定的試算を行った大気中に放出されたヨウ素 131、セシウム 137 は、事故発生から終息までの周辺の被ばく線量を評価する上で重要なものです。なお、今回の事故により環境中に放出された放射性物質としては、他に、大気中に放出された希ガス、海洋に放出された放射性物質、敷地内の表層や土壌中に沈着したものがああります。

### 3. 今後

今後も引き続き、この種の作業結果については、とりまとめ次第公表してまいります。

## ヨウ素131、セシウム137の大気中への放出総量(モニタリングデータからの推定値)



注)事故発生以来その日までに大気中に放出された総量を示しているものです。  
その日1日で放出された量ではありません。